

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人かすがい市民文化財団	
施 設 名	春日井市民会館	
助成対象活動名	普及啓発事業	
内定額（総額）	763	(千円)
公 演 事 業		(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業	763	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	昼コン&夜コン 親子のための初めての 音楽会	4月11日～11月16日	出演：Full Brass Five ほか 曲目：「モンテリジャンの丘」ほ か	目標値	2,000
		文化フォーラム春日井・交 流アトリウム		実績値	3,090
2	かすがい どこでも アート・ドア（アウト リーチ事業）	11月16日	講師：井草聖二	目標値	500
		春日井市立南城中学校		実績値	312
3	かすがい文化フェスティ バル	8月15日／30日	講師：岡本理沙 スタッフ：当財団職員	目標値	200
		春日井市民会館／文化 フォーラム春日井・会議室		実績値	105
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	2,700
				実績値	3,507

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

「昼コン&夜コン&親子のためのはじめての音楽会」は、春日井市で15年続いている事業のため、地域に根付いており、予定通りに進められた。要望書の目標値を1000人も超える集客を誇ることができた。

「かすがいどこでもアート・ドア」は、当初予定していた音楽アーティストたち6組のうち、井草聖二氏のみを派遣となった。しかしながら、助成対象外となっている文芸（短歌）、美術、演劇の要望が学校側からあり、その分野でのアーティストを派遣した。結果、当財団のアウトリーチ事業全体としては目標値を達成した（8回）ものの、助成対象のものは達成しなかったことになる。学校現場においては、教育課程に添ったプログラムであれば受け入れやすいが、そうでないものについては難しくなっている学校の現状を感じた。令和元年度からは学校現場だけではなく、町内会や子ども会、幼稚園などに広げてPRしていくことにしている。

「かすがい文化フェスティバル」は、参加人数は要望書の目標値より下回ったが、内容を詰めていく過程で最適な参加人数を設定した。結果、定員に達し、参加者の満足度も高かった。当初の参加者数の目標値には届かなかったが、新しい試みであったために、参加者の安全面等を考えても、無理の無い人数で実現出来たと思う。今回の経験を活かし、今後目標値を立てる上での参考となった。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

会場となっている春日井市民会館と文化フォーラム春日井は、春日井市の文化活動の拠点として位置付けられている。

今回助成をいただいた中で、「昼コン&夜コン」は15年継続しており（H30年度）、地域に根強い音楽会である。中部地方を中心に活動しているプロやセミプロの演奏家たちに、無料で聴けるコンサートを月2回（金曜夜、土曜昼）行ってもらっている。交流アトリウムという、誰でも気軽に立ち寄れる空間で行うコンサートには、乳幼児連れの親子から、施設内にある図書館帰りの学生、年配の方まで幅広い客層の様々な人々が訪れる。近隣の老人介護施設から車椅子で来館される利用者もいて、バリアフリーで楽しめるコンサートとして認知されている。毎回、このコンサートを楽しみにされている市民の方々も多く、昼は250人前後、夜は150人前後の来場者が訪れる。今後も文化フォーラム春日井を代表する催しとして継続してゆく。

そこに加わった「はじめての音楽会」は、未就学児を連れたファミリー向けに行うコンサートである。時間は30分～40分、開催を午前中として、子連れに配慮した内容となっている。平成30年度で3回目を迎えたが、400人近い来場者で大賑わいとなる。社会的にニーズが高い催しとして今後も継続してゆく。

「かすがいどこでもアート・ドア」「かすがい文化フェスティバル」は、元々春日井市が行っていた事業と、当財団のアウトリーチ事業、夏休みの子ども向け事業（昼涼み事業）とを統合し、当財団に一括して委託されたものになった。いずれも、ここ数年は申し込み多数で抽選になる人気となっており、市民のニーズに応える文化事業として根付いている。「かすがいどこでもアート・ドア」は地元で貢献したいという若手音楽家たち、そして「かすがい文化フェスティバル」は、地元で活動を行う春日井市文化協会加盟の方々を中心として、今後も継続してゆく事業である。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

「昼コン&夜コン」では、アンケート集計から、「満足」「まあ満足」と満足度がほぼ100%と非常に高い満足度を誇る。無料でクオリティーの高い演奏を聴けるコンサートとして、安定した高評価を得ている。「親子のための初めての音楽会」も、来場者からは多くの好意的な意見をいただいている。目標を大きく上回る来場者数を記録した。

「かすがいどこでもアート・ドア」で派遣したギタリストの井草氏は、演奏も素晴らしいが、それと共に生徒へ伝えるメッセージ性の高さに定評がある。引きこもりだった中学生の頃、ギターに出会って人生が変わった、という彼の経験談は、多感な中学生の心に響く。迎え入れていただいた学校からも非常に評価が高く、3年連続で来て欲しいとのリクエストをいただいた。

予定していたアーティスト6組のうち、1組（1人）だけの派遣となったことは目標を達成できなかったといえるが、学校側の要望が無かったので、仕方がない部分はある。教育現場の先生方が忙しく、授業のカリキュラムに沿った内容でないと、受け入れが難しい現状を何人もの先生方から聞いた。そうなるとうと音楽ではなく、文芸（短歌）・美術（図工）という内容の方が授業としての受け入れやすさはある。教育現場だけではなく、広く社会に望まれる音楽活動へと、アート・ドアの方向性を変える必要があると感じた。

「かすがい文化フェスティバル」でも、子どもたちからたくさんの「楽しかった」という感想が寄せられた。「親子で挑戦！謎解きゲーム in 春日井市民会館」は、市民会館を巡りながら親子で楽しく謎解きを行った。職員のモチベーションも高く、楽しんで工夫しながら謎を作っていた。大変好評だったため、次年度も継続して開催することになっている。演劇的要素を盛り込んだ「みんなで巨大すごろくを作ろう！」はすごろくのマスに止まったお題をジェスチャーで表現し、それを当てる面白さに、参加した子どもたちだけではなく、見学している保護者も大いに盛り上がった。「明日もまた来るね！」と言って帰っていった子どももいた。講師の岡本氏は初めてこのようなワークショップを行ったのだが、結果に自信を持てたとのこと。今後の自身の活動にも弾みがついたと感じる。若手のアーティストを育てる意味でも、非常に意義のある催しとなった。



【写真】「みんなで巨大すごろくを作ろう！」の様子。講師の岡本理沙氏（左）。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

「昼コン&夜コン」は会場となっている交流アトリウムで、快適に過ごしていただける日程で開催を行っているため、4～6月、9月～11月の期間としている。16年続いている催しのため、広報から公演日までの一定のフォーマットができており、職員手作りのコンサートでありながら、過度な負担にならない工夫を行っている。

「かすがいどこでもアート・ドア」については、学校サイドの日程ありきな部分があるが、今回は調整もスムーズに行えた。

「かすがい文化フェスティバル」については、子どもたちの夏休み期間のイベントとして定着している。3事業ともに事業期間は適切であると言える。また、「アート・ドア」は当初の計画どおりの回数とはなかったものの、決定したものに関しては問題なく進められた。

事業費については「昼コン&夜コン」で、毎回ほぼ1万円を超える寄附金を市民から頂いている。出演者についても、比較的安価な金額で出演いただいております。適切であると考えている。

「かすがいどこでもアート・ドア」および「かすがい文化フェスティバル」についても、交通費込みの金額であり、事前準備等も含めると、妥当な謝金といえる。

事業費については、どの事業においても適切であり、当初の計画どおり進められた。



【写真】「かすがいどこでもアート・ドア」。講師の井草聖二氏、南城中学校での様子。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当財団の普及啓発事業の代名詞「昼コン&夜コン」は、音楽が市民の日常生活に浸透することを目指し、施設のエントランス空間・交流アトリウムを会場に行っている。3層吹抜けの交流アトリウムは図書館からもステージが眺められる構造で、周囲がガラス張りであることから外を行き交う人々からも中が垣間見える特殊な空間である。

この施設特性を活かして、図書館や市役所に訪れた市民が、偶然に生の音楽に触れる出会いの場となるよう工夫している。この偶然の出会いこそが、芸術文化の裾野をひろげる上で重要であり、行き交う人々が一時足を止めて耳を傾ける姿は、地域の文化拠点の象徴的な一場面である。最近は写真や動画撮影も可とし、SNSなどで拡散されることで事業の認知度も向上し、来場者も増加傾向にある。

当館の複合文化施設としてのメリットを活かすため、催事により人を集めるのではなく、人のいるところで催事を行うよう発想の転換をし、来館者の滞在時間が長くなるようにキッズコーナーや飲食スペースの開放などに日々取り組んでいる。加えて「昼コン&夜コン」「文化フェスティバル」をはじめ、多くの事業をオープンスペースで開催することにより、賑わいの視覚化を実現している。

しかし、オープンスペースでのコンサートは必然的に入場無料となり、継続・拡張するためには安定的な財源が必要となる。普及啓発事業は、継続しないと意味がない。そのため、本事業では、来場者から寄附金をいただき、運営費の一部に充てている。その額は3年前と比べて3倍に増え、市民が事業の理解者・支援者として、芸術の新しい芽をともに育てている。このような関係性の変化から、従来のサービスの提供者、受益者という関係性から、ともに事業を支える「コモン的な事業」へと変わりつつあると感じている。実際、コンサート終演後は観客自ら座席を片付け、ゆるやかに運営をサポートしてくれている。



【写真】 昼コン&夜コンのスピノフ企画「親子のためのはじめての音楽会」の様子。市の施策である「子はかすがい 子育ては春日井」の一助となる取り組み

## 【創造性】

### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

設置者が募った東日本大震災に伴う電力不足に対応するための節電対策として、当財団が始めた「かすがい文化フェスティバル」は、劇場音楽堂の技術や人材をフル活用して、夏の暑い時期に公立文化施設に多くの子どもたちを集ってもらうための、ワークショッププログラムである。平成30年度で9年目を迎え、夏の定番事業として、実演芸術はもちろん、それ以外の美術等のワークショップを含め1,000人を超える親子が参加した。また、開館52年を迎えた歴史ある春日井市民会館の活用方法について、普段、劇場に馴染みの薄い方にも親しんでいただく機会として開催した「劇場探検ツアー」は、職員の持つスキルをフル活用して、音響や照明など技術的な面はもちろん、生の音楽に触れる機会も提供し、お盆休みに家族そろって参加された市民に好評を得た。また、地元芸術家をメインに設置者が行っていた子ども向けワークショップについて、当財団の運営ノウハウやスキルの評価から平成29年度より「かすがい文化フェスティバル」へ組み込まれた。事前にニーズを把握するためのアンケートを行い、募集の受付方法や当日運営等、細かく見直ししたところ、参加する親子や芸術家たちから、事後アンケートで大変好評を得た。

「かすがいどこでもアート・ドア（アウトリーチ事業）」については、これまでの取組を“受けた側（子ども等）”、“導入側（先生等）”、“実施側（芸術家等）”の目線で紹介するパンフレットを作成し、校長会で配布するなど、わかりやすい情報発信に取り組んだ。

各ステークホルダーとは、実際の距離も近いことから頻繁にface to faceの情報交換を行い、ニーズ等を把握し、随時、事業に反映している。また、財団全体の取り組みを写真や図を使ってわかりやすく冊子にまとめ配布した。ウェブサイトなどのデジタル媒体はもちろんのこと、デザインのスキルを持つスタッフがチラシ1枚から丁寧且つ迅速に作ることで、各ステークホルダーからの信頼を得ることができている。

### ステークホルダー



#### 市民

地域に根ざした事業を継続的に展開し、市民のニーズや地域の課題を共有。当財団は地域の専門家として、一部のジャンルや世代に偏ることなく、誰もが親しめる芸術文化の普及を目指し、環境を整備しています。



#### 地域の芸術家たち

財団設立当初から市から事業を受託し、約200名の地元の芸術家と様々な事業に取り組んできました。また、地元の若手芸術家や国内・海外で活躍する春日井出身のアーティストたちとも連携しています。



#### ボランティア

公演のフロントスタッフ、情報誌のレポーター、映画の音声ガイド、自分史サークル団体など多くのボランティアと協働しています。芸術文化を通じて、人と人のつながりを感じられる情勢を作り上げています。



#### 県内の劇場連携

愛知県内は劇場間の横のつながりが強く、その土壌は愛知県公立文化施設協議会の人材育成プログラムで育まれました。公共、民間の分け隔てなく、地域全体で人材育成に取り組んでいます。



#### 市の外郭団体

春日井市内のスポーツ、医療・健康、給食などの領域で活動する他業種団体とゆるやかに連携し、様々な情報交換を行っています。各ジャンルに留まることなく、市民生活全般を俯瞰することで、芸術文化の波及効果を発揮しています。



#### 春日井市

「春日井市文化振興基本条例」に、文化振興に関する財団の責務が謳われています。当財団は、この責務を果たすべく、市の施策を理解したパートナーとして地域課題に取り組みます。「市は文化政策、財団は現場」の両輪で、文化振興を図っています。

かすがい  
市民文化財団

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当財団は、芸術監督等、組織を強力に牽引するカリスマ芸術家や経営者がいないことを逆に強みとして、職員一人一人のベクトルがそろった組織力を活かしている。

事業企画は、管理職と正規職員が全員出席する企画会議で検討を重ねて決定しており、誰でも企画を提出できるのが特徴。ただし、事業の質を担保するために専門職であるプロデューサーのチェックを受けてから提案している。

また、すべての事業の開始時に、事業担当者、広報担当者、プロデューサー、マネジャーによるキックオフミーティングを行い、前年度の反省点の確認や新たなアイデア、広報戦略について話し合い、事業の改善につなげている。

事業の主担当者は全員、無期雇用の正規職員である。平成30年1月に嘱託職員制度を廃止（再任用除く）し、職責の異なる正規職員と臨時職員のみとすることで同一労働同一賃金を実現している。当財団の正規雇用率は31年3月末時点で63%であり、28年度に3年有期雇用から無期雇用に転換した。離職率も大幅に減少し、産休育休の取得率も向上し、31年3月末時点で4名の職員が育児休業中である。

正規職員の時間外勤務は、30年度実績で月平均20.8時間であり、3年前と比較して24%減少している。長年勤める職員のスキルアップ及び業務の効率化を進めたことにより、以前に比べて働きやすい環境が整ってきている。

また、専門職のキャリアアップ形成を考慮し、プロデューサー職と技術長職を新設し、現場の責任者であるマネジャー職と同格に置いた。これにより、職員が自分の志向にあったキャリアアップを図ることができるようになった。

職員の人材育成は、年4回の内部研修に加え、外部研修へ積極的に参加している。愛知県は劇場間の横のつながりが強いという特徴がある。その土壌を育んだのが、愛知県公立文化施設協議会の人材育成プログラムであり、ベテラン職員のノウハウを次世代に伝える仕組みと人間関係を構築している。公立、民間の分けなく、地域全体で人材育成に取り組んでいる。

このような取り組みにより、持続可能な事業運営を可能としている。



【写真】 年4回実施する財団の内部研修の様子。グループワーク形式で普段の業務の中ではなかなか話し合う機会の少ないテーマについてじっくり話し合う時間を設けている。